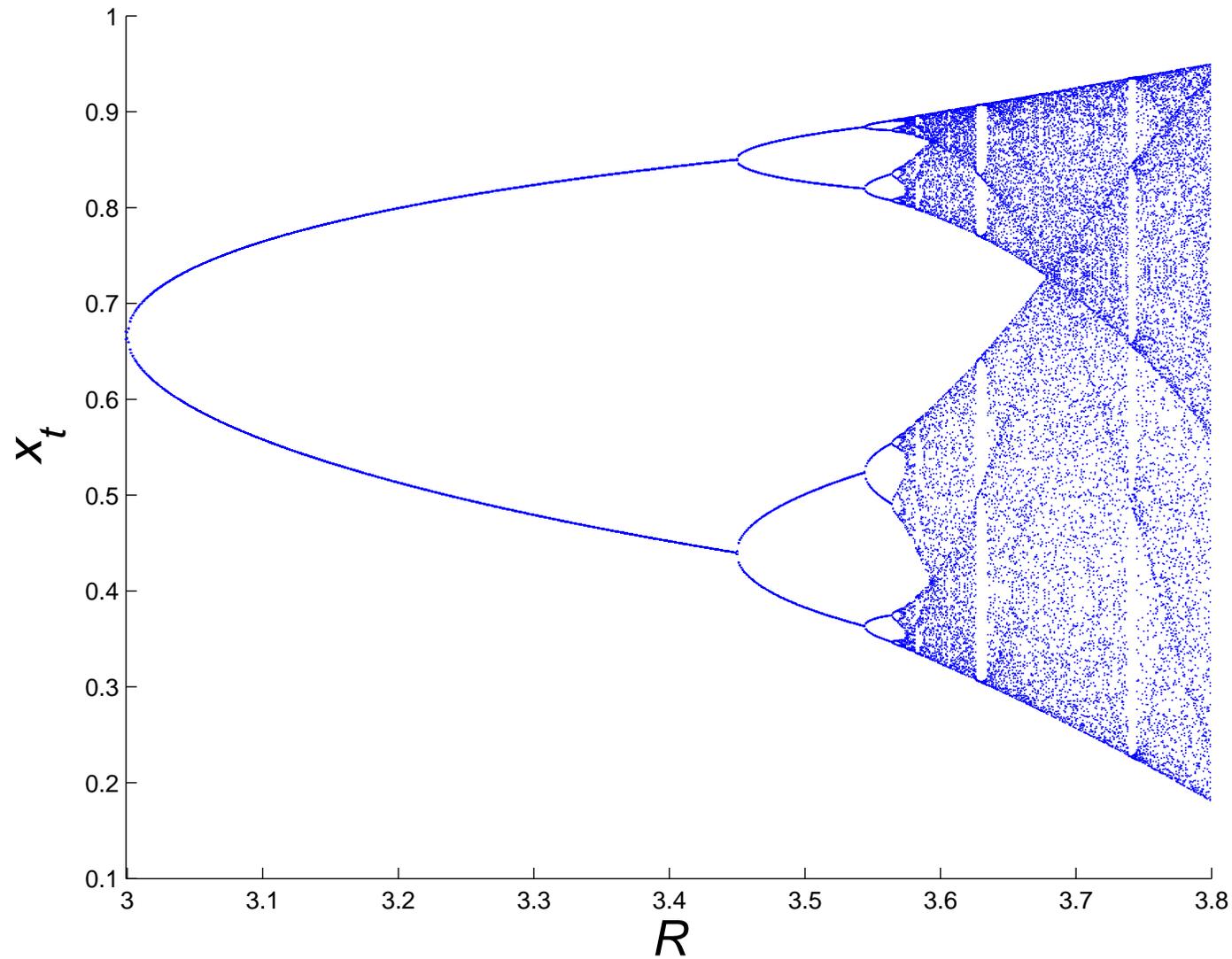
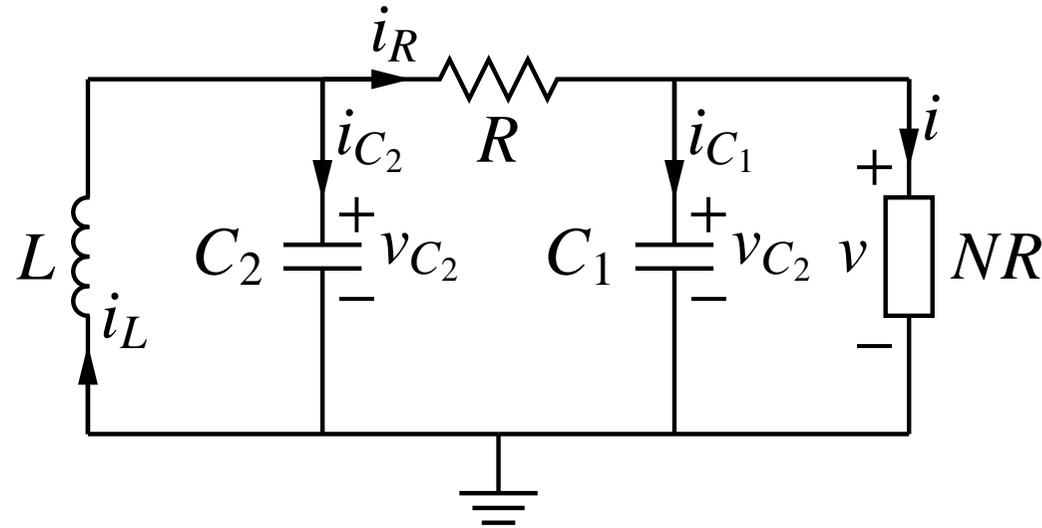


Period Doubling Bifurcation



Chua 回路



$$\begin{cases} C_1 \frac{dv_{c_1}}{dt} = G(v_{c_2} - v_{c_1}) - g(v_{c_1}) \\ C_2 \frac{dv_{c_2}}{dt} = G(v_{c_1} - v_{c_2}) + i_L \\ L \frac{di_L}{dt} = -v_{c_2} \end{cases}$$

但し, $i = g(v) = m_0 v + \frac{1}{2}(m_1 - m_0)|v + B_p| + \frac{1}{2}(m_0 - m_1)|v - B_p|$

$i - g(v)$ 特性

$$i = g(v) = m_0 v + \frac{1}{2}(m_1 - m_0)|v + B_p| + \frac{1}{2}(m_0 - m_1)|v - B_p|$$

1. $B_p \leq v$ ($v - B_p \geq 0$)

$$\begin{aligned} g(v) &= m_0 v + \frac{1}{2}(m_1 - m_0)(v + B_p) + \frac{1}{2}(m_0 - m_1)(v - B_p) \\ &= m_0 v + (m_1 - m_0)B_p \end{aligned}$$

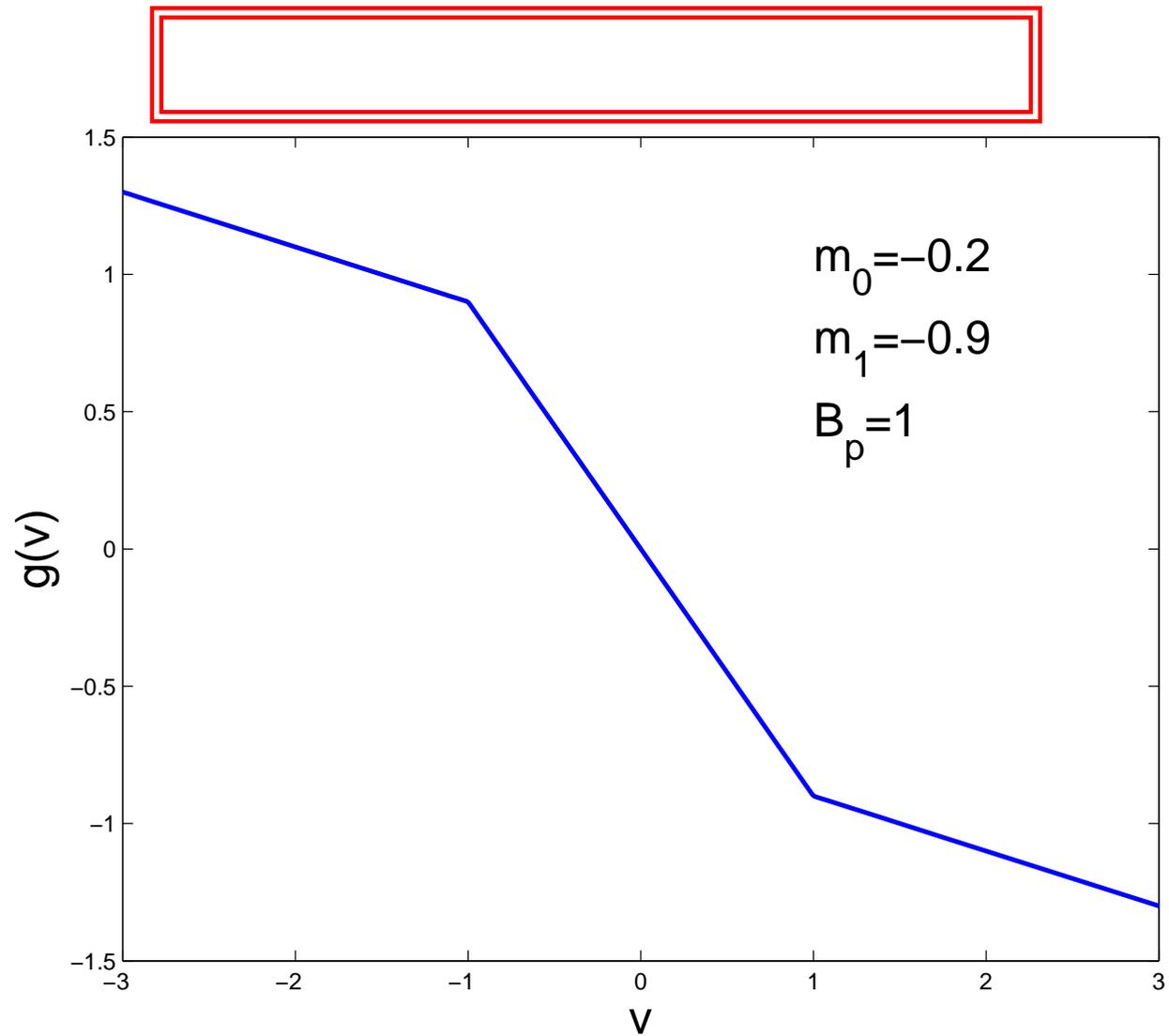
2. $-B_p \leq v \leq B_p$ ($v - B_p \leq 0, v + B_p \geq 0$)

$$\begin{aligned} g(v) &= m_0 v + \frac{1}{2}(m_1 - m_0)(v + B_p) - \frac{1}{2}(m_0 - m_1)(v - B_p) \\ &= m_0 v + (m_1 - m_0)v = m_1 v \end{aligned}$$

3. $v \leq -B_p$ ($v + B_p \leq 0$) $-B_p \leq v \leq B_p$

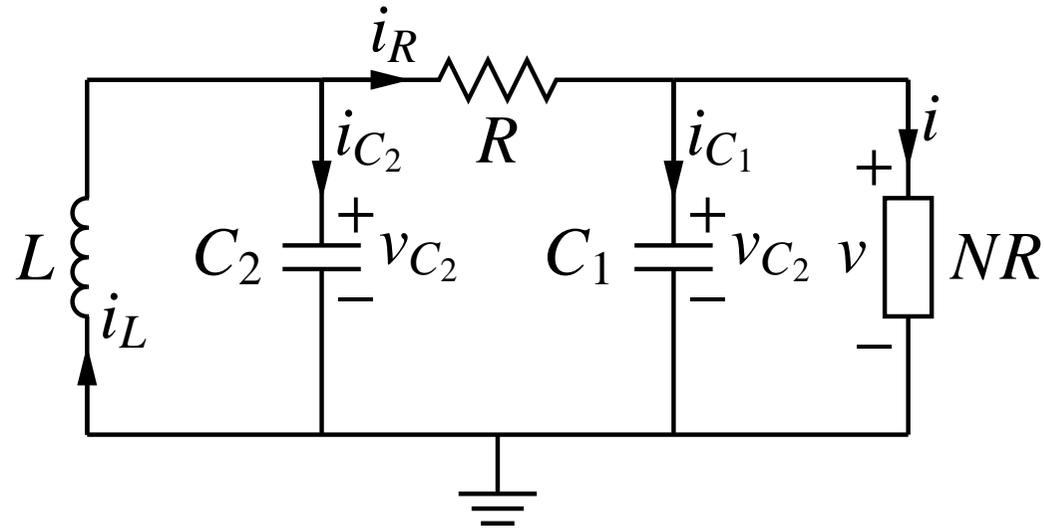
$$\begin{aligned} g(v) &= m_0 v - \frac{1}{2}(m_1 - m_0)(v + B_p) - \frac{1}{2}(m_0 - m_1)(v - B_p) \\ &= m_0 v - (m_1 - m_0)B_p \end{aligned}$$

$i - g(v)$ 特性



ダブル・スクロール

- 松本隆 (早稲田大学) , Leon Chua (UC Berkeley) ら
- Chua 回路 (非線形抵抗を含む電気回路) から生成されるカオスの一例



- カオスへ至るルート (周期倍分岐) などをオシロスコープで観測可能

✌ デモンストレーションを見てみよう。

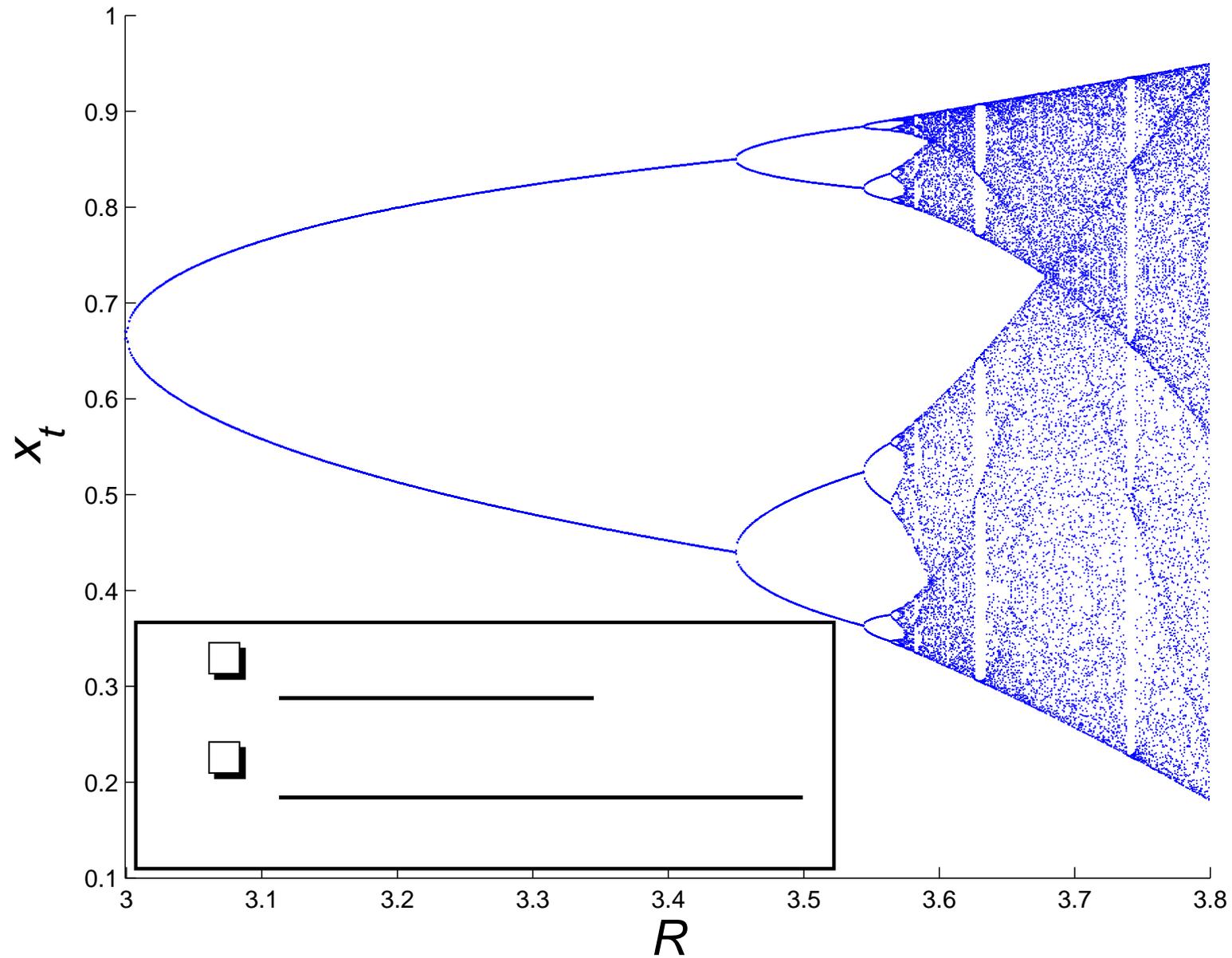
演習

- 固定点 (周期 1) から周期 2 へと分岐する点は, $R = 3$ であった.
- 周期 2 から周期 4 へと分岐する R の値を求めなさい.

👉 ヒント

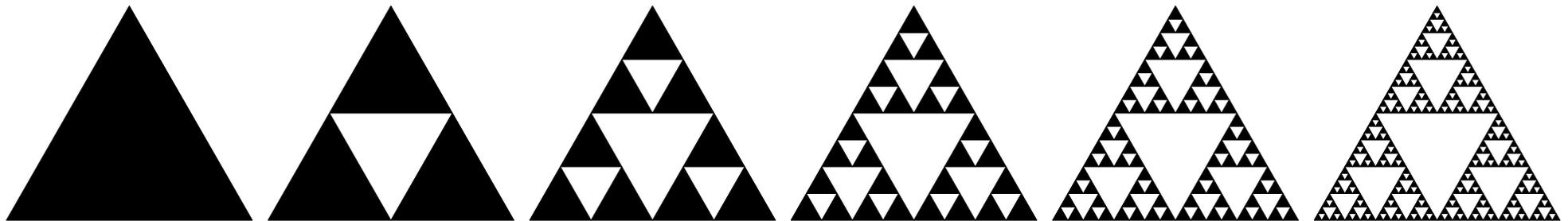
- まずは, 2 周期点 (これらを q_1, q_2 とする) を求めよう.
- 周期 2 から周期 4 への分岐では, 2 周期解 q_1, q_2 が不安定化し, q_1 の回りに安定な点が 2 つ, q_2 の回りに安定な点が 2 つ, 合計 4 つの安定な点 (これらが 4 周期解に対応) が表れている.
- そこで, 2 回写像に関する q_1, q_2 の安定性を議論すれば良い. つまり $(f^2)'(q_1)$ と $(f^2)'(q_2)$ を計算し, R の関数として表せば良い. その際,
 - 合成関数の微分則 (チェインルール)
 - 2 次方程式の解と係数の関係をつかうと計算が楽になる.

Order within Chaos

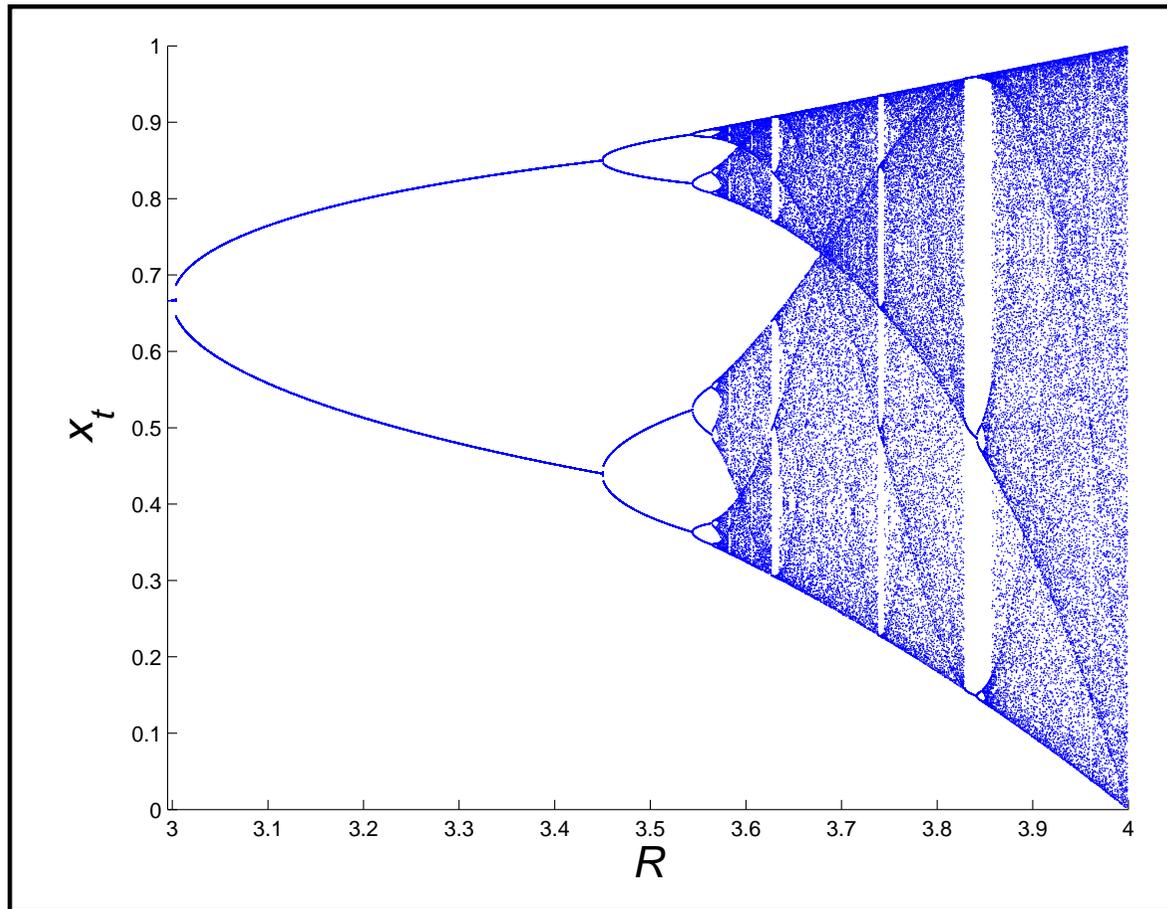


フラクタルとは？

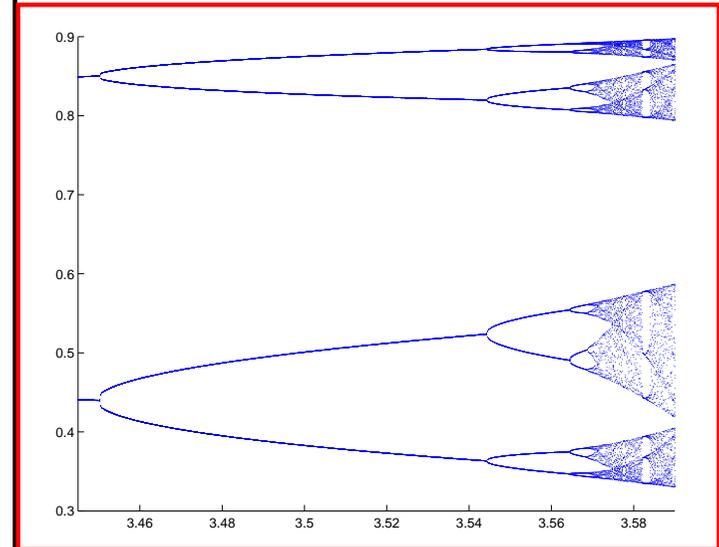
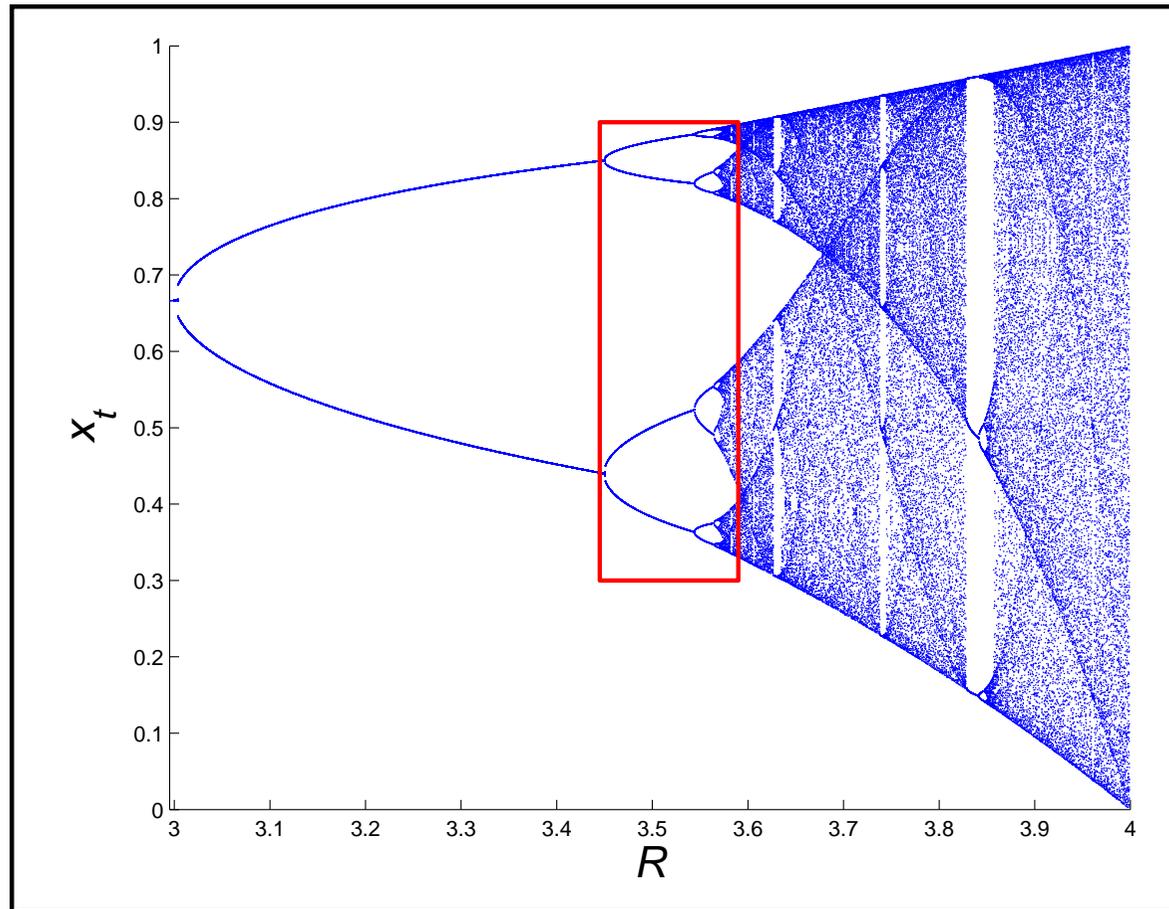
- ❑ 図形 (集合) の一部分を拡大すると, その図形と _____ が現れる
- ❑ 語源
 - Fractal – Benoit Mandelbrot, 1975
 - ラテン語の動詞 frangere → fractus
- ❑ ニュートンの図形観 (_____) とは異なる考え ⇒ 要素に _____



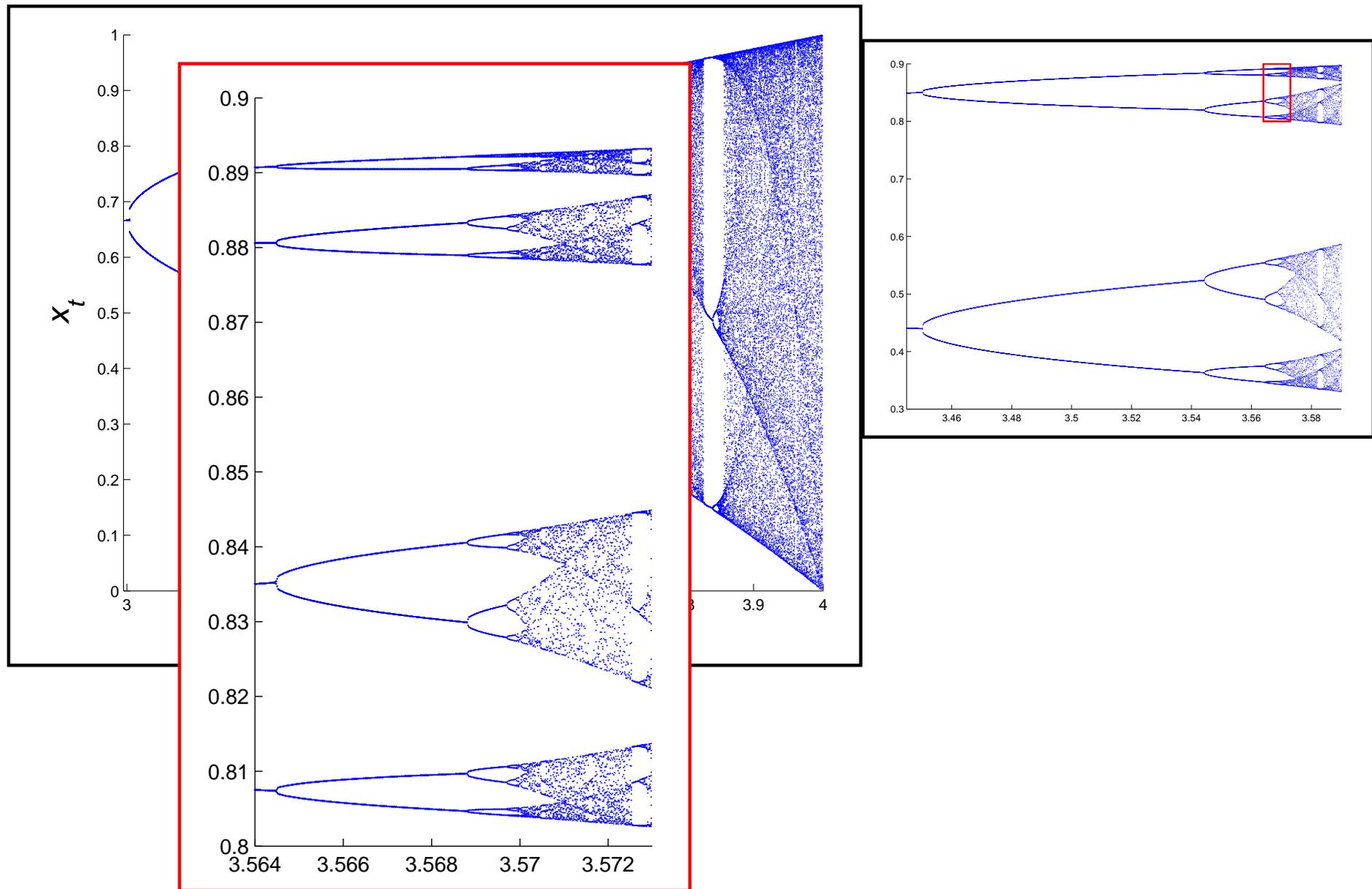
分岐図におけるフラクタル性



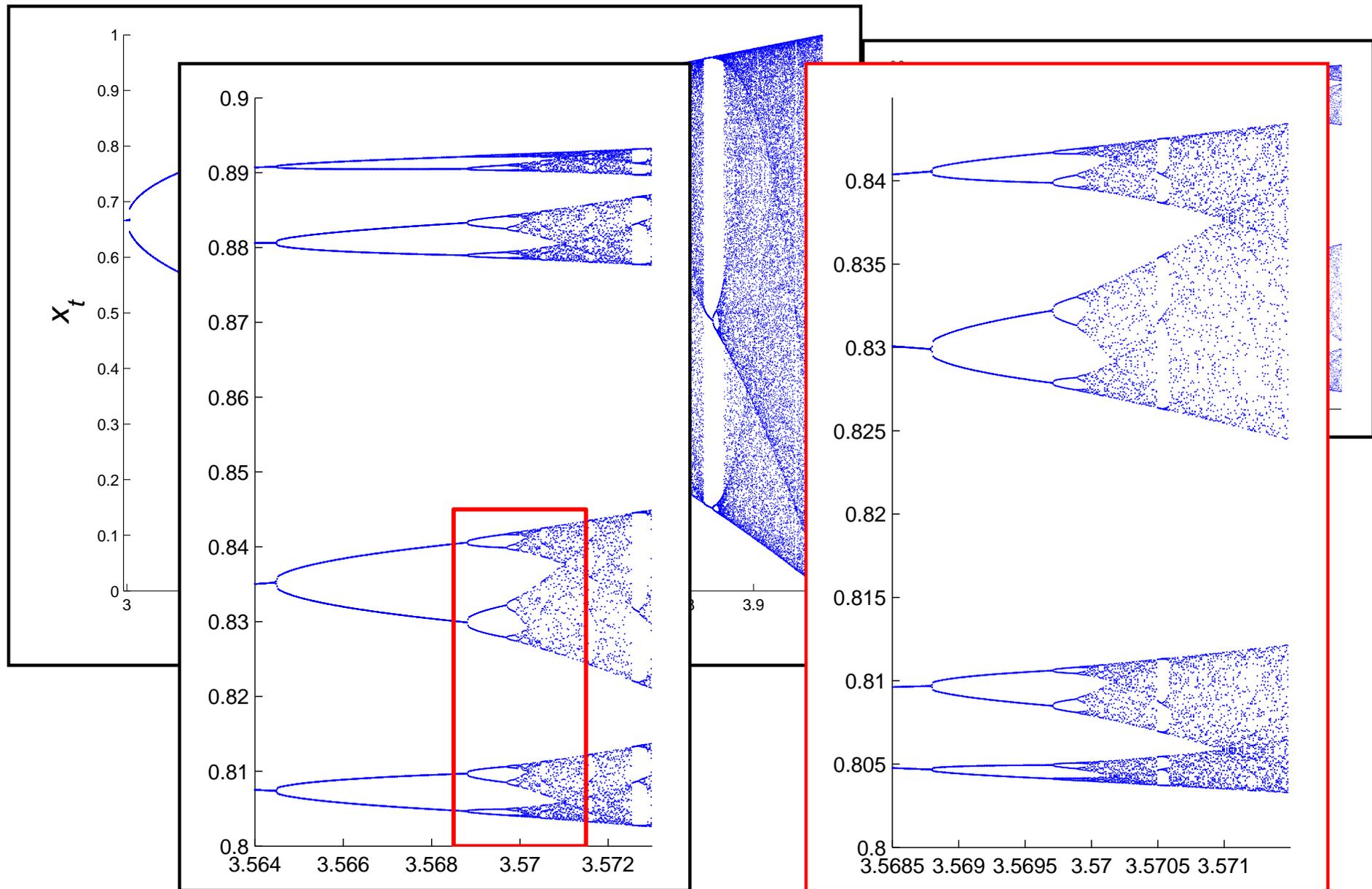
分岐図におけるフラクタル性



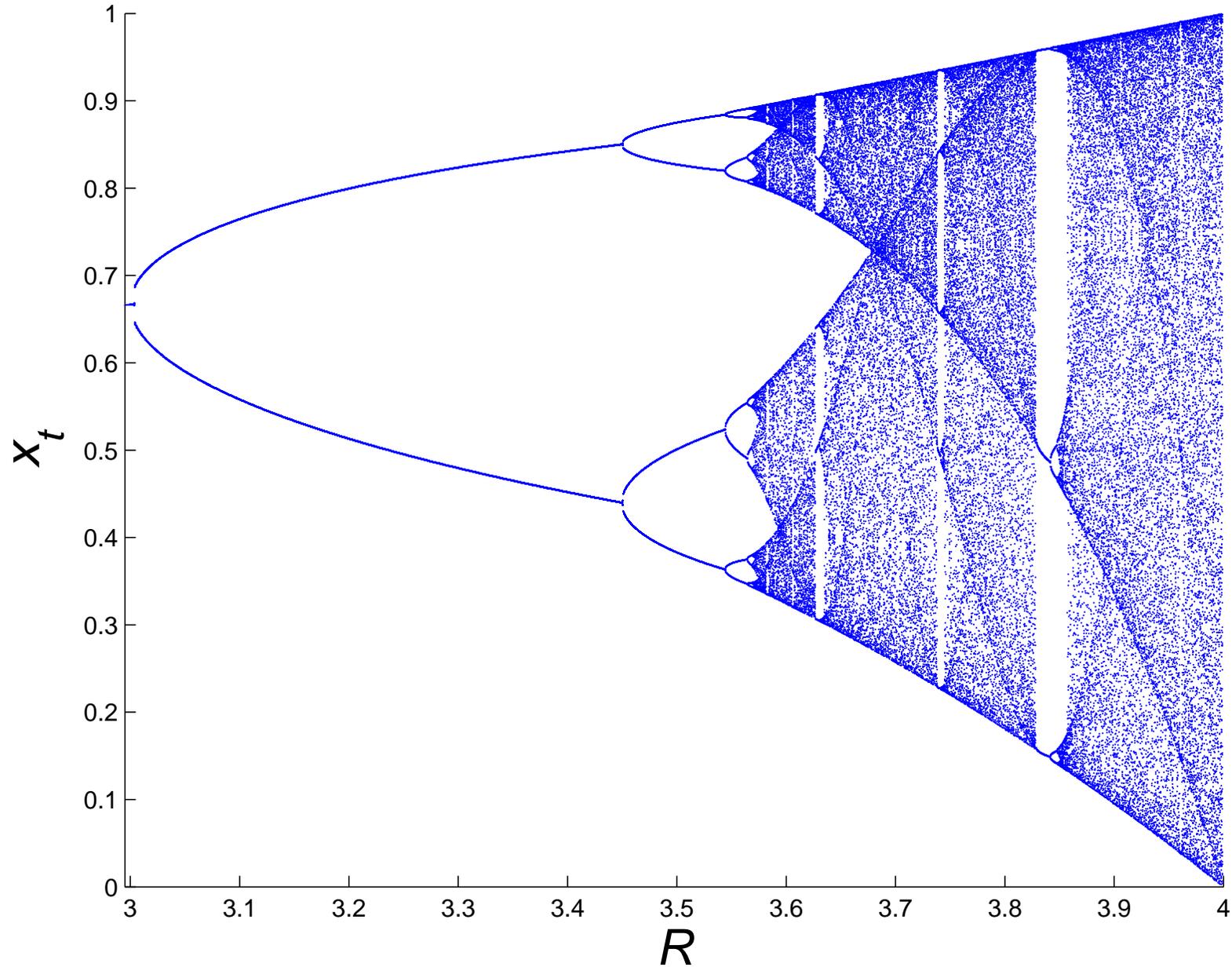
分岐図におけるフラクタル性



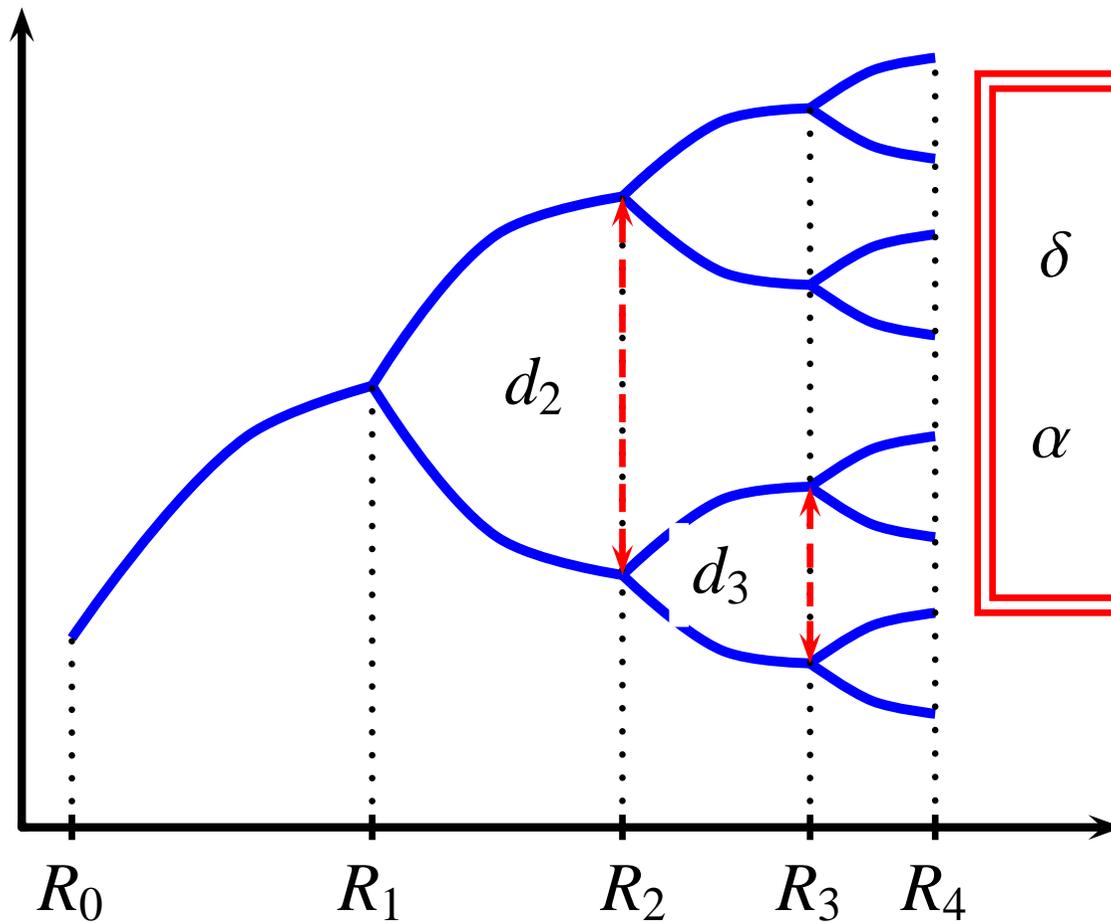
分岐図におけるフラクタル性



ファイゲンバウム (の普遍) 定数



ファイゲンバウム (の普遍) 定数



$$\delta = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{R_n - R_{n-1}}{R_{n+1} - R_n} = 4.669 \dots$$

$$\alpha = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{d_n}{d_{n+1}} = 2.5029 \dots$$

ファイゲンバウム (の普遍) 定数

なぜこれが人々を驚かせたか？



参考資料紹介

- 早間 慧, (改訂増補) カオス力学の基礎, 現代数学社,

